科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名<英訳>	ILASセミナー：日本古代・中世政治文化論I ILAS Seminar :Politics and Culture in Ancient and Medieval Japan I			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　吉江　崇		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	受講定員(1回生定員)	12 (12) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	共西12			使用言語	日本語
キーワード	日本史関連 / 天皇家 / 中世の公家政権						

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

【日本古代・中世史研究書入門】
１冊の研究書を受講者全員で輪読し、日本の政治・社会・文化に対する歴史的思考力を高めることを目指す。大学生や一般の人を読者層として想定した、簡易で比較的新しい書籍を取り上げるが、記述の背景を調べ、根拠となっている文献史料の原典を読解することによって、記述内容を批判的に検証する。そうした作業を通じて、歴史に対する思考力・感覚・想像力を磨くことを目指す。
今期は、本郷恵子著『天皇家の存続と継承』を取り上げ、中世を転換点としながら現代まで存続する天皇制の特質について考える。

[到達目標]

古代・中世の日本の歴史に関して正確で幅広い知識を獲得するとともに、文献史料の原典を自分の力で読解し、提示された学説を吟味して、自分の見解を対置する能力や、歴史像を組み立てるための技術を身につける。

[授業計画と内容]

天皇家は、なぜ今日まで存続することができたのか。これを考えるには、中世の天皇を理解することが有効である。上皇となった者が天皇に代わって政務をとる方式を院政というが、院政の前提となる天皇の譲位は、意中の後継者への確実な継承を直接の狙いとしたものであり、院政は副次的に生まれたに過ぎない。律令制に発する太政官体制が、理念先行の演繹的体系だったのに対し、院政は、実態の集積から導き出された帰納的方策だったといえるだろう。朝廷＝公家政権が創出し、維持してきたものに、官位の体系と儀礼や年中行事の体系とがある。武家による官位体系への依存や、儀礼・年中行事に関する有職故実の存在は、朝廷の存在意義を支える意味をもっていた。大規模な災害に見舞われると、公家政権と武家政権がそれぞれ対策を講じたが、両者の対策は全く逆のもので、武家政権が現実的な支援を行ったのに対し、公家政権は攘災の祈りを行った。これは、天皇が神とのあいだに特別な回路をもっていると認識に由来する。その他、婚姻政策や血統管理に関し、古代から中世への変遷をみることも、天皇が存続した理由や、天皇制の課題を考える上で示唆を与えてくれる。
本郷恵子著『天皇家の存続と継承』を輪読しながら、中世を転換点としながら現代まで存続する天皇制の特質を把握する。あわせて、根拠とされる資料を分析し、内容の可否を検討する。

第１回　イントロダクション
第２回　天皇制の課題を中世史から考える
第３回　中世の開始と天皇制（１）
第４回　中世の開始と天皇制（２）
第５回　官位と儀礼（１）
第６回　官位と儀礼（２）

ILASセミナー：日本古代・中世政治文化論I(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：日本古代・中世政治文化論I(2)

第７回　官位と儀礼（３）
第８回　危機と天皇、神との回路（１）
第９回　危機と天皇、神との回路（２）
第１０回　世襲の方式（１）
第１１回　世襲の方式（２）
第１２回　血統の確保・血統の管理（１）
第１３回　血統の確保・血統の管理（２）
第１４回　天皇制はどこへ向かうのか／総　括
《期末試験》
第１５回　フィードバック
※上記の各回の内容は取り上げる書籍の目次によるものである。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業内での報告および発言・５０点）と期末試験（レポート・５０点）の合計で成績評価する。

[教科書]

本郷恵子『天皇家の存続と継承　中世の転換から現代へ』（吉川弘文館）ISBN:978-4-642-30622-5（2025年刊行、1800円＋税）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

全体の進行をあらかじめ通知するので、各回の輪読個所を読み、授業内容を想定しながら予習をすること。

[その他（オフィスアワー等）]

授業はゼミ形式で、発表および質疑への参加が必須である。

[主要授業科目（学部・学科名）]